



有限会社敏彩窯

伝統を大切にしながらも時代にマッチ。 目指したのは、自然に近い窯の構造です。

敏彩窯は、私の祖父の代から三股皿山で三股青磁を採掘し、陶石を選び、素地土を選び、天然呉須をブレンドして他には真似のできない和食器を製作してきました。私が藍色にこだわるのも、そんな伝統を守りたいからです。焼き物づくりで言えば、実際の火の色を目で見て焼くのが本来のやり方かもしれません。しかし、藍色が日本の伝統工芸色として高い評価を受け、海外でもジャパンプルーとして注目されるようになった昨今、一部デジタル化も時代の流れではないか、と今回の導入に至りました。それでも私たちが目指すのは、手描きの絵付にこだわった風合いを大切にしたい柔らかな感覚。試行錯誤の結果、独特の風合いを損なわずに量産化を実現できたと思います。

代表 小林 晴敏



深い藍色を演出し消費者から好まれるブランド日用食器の生産拡大で競争力強化

課 題	取 組	結 果
■食器製品の 2.5 ヶ月以上の受注残 ■焼成炉容量の制限 ■焼成炉の老朽化	■大型かつ、必要な制御性、自動化を有する焼成炉の導入 1.5mガスシャトルキルン	■歩留りの向上 ■生産効率のアップ ■直売販路の拡大

取組への経緯

需要はあるが供給が追いつかず、約 35% の販売機会の逸失。

全国でも評価の高い波佐見焼。中でも敏彩窯は、多種の釉薬と藍色コバルト顔料をもとに、鮮やかな藍色の色合いと多彩な釉の風合いを自社開発し、製造販売を行なっている。

近年、波佐見焼の注目度が高まり、また絶妙な階調の敏彩窯特有の藍色が人気を博し、市場からの要求数量は恒常的に 11,350 個／月を超える状況である。しかし一方で、製造量は最大 7,280 個／月に止まり、約 4,070 個が納入残となっている。

約 35% のロスの原因は焼成炉容量の制限があること、およびその老朽化にある。現焼成炉は密閉度が低く、熱効率が悪いため色ムラが出やすい。焼成品を最大限商品化にできないことも課題であった。



敏彩窯の特徴である自然味のある風合いは、手仕事から生まれる

実施内容

量産性と品質の再現性を併せ持つ新しい設備を。

そこで、生産能力を増加させる大型の焼成炉を導入。ただし、これは単純に大量生産ができればいいというものではなく、究極の藍色を基調とする製品の品質を保つものでなければならなかった。そ



生産能力 1.5 倍の焼成炉。焼成条件を高精度で制御できる

のため、従来比 1.5 倍の収容能力に加え、高い精度要求に応え得る制御性、自動化を有する焼成炉を選定。

主な特徴として、炉内温度分布がより均一となる。各バーナーは個別に手動で微調整が可能。風などの自然現象にも自動で対応し、炉内の温度、酸素を調節。焼成時に炉外で次の段取りができるよう台車交換機能を有する等が改良された。

設備を導入後も、テストピースを何度も焼いて、熱の伝わり方、発色の仕方を研究し、敏彩窯の商品としてふさわしい品質となるようプログラムを調整した。

取組成果・波及効果

結 果

市場ニーズに応えとともに、個人のお客様にも販路を広げる。

実働後、色ムラは減少し安定した品質を提供できている。製品の特性上、どうしてもキズなどが付いてしまい欠品がゼロになることは難しいが、それでも 1～3% に止まり、歩留りは格段に向上した。

生産量に関しては、近年多発する自然災害の影響で原料が手に入らないこともあり、数字としては残せていないが生産能力が 1.5 倍となったことは間違いない。その他、一部自動化により、生産効率が格段にアップしたことも大きな成果である。焼き物の窯入れ・窯出しの作業や、自然現象の変化による窯の状態を見る作業が少なくなったことで絵付など手作業にこだわった作業に時間を費やすことができるようになり、作品のブランド化を強化することにもつながった。また、商品のバリエーションも増え、これまでほとんどなかった直売が 1 割程度増加している。



隣接するギャラリーに足を運ぶお客様も増えた

Company Information

有限会社敏彩窯

☎ 0956-85-2157 FAX.0956-85-2153

■所在地／〒859-3705 長崎県東彼杵郡波佐見町永尾郷 2235

■代表者／小林 晴敏

■設 立／平成 2 年 4 月

■資本金／1,000 万円

■業 種／陶芸製造小売

■従業員／4 名